



○サテライトトカマク (JT-60SA) 製作の進展

欧州の調達機器であるクライオスタットベースの設計レビュー会議が、日欧ホームチーム参加の下、6月16日にTV会議にて開催され、調達取決め書案などが議論された。また、同じく欧州の調達機器であるトロイダル磁場コイルについては、日本ホームチームの参加者など4名の外部評価委員に加え、欧州内の関係者19名が参加して、6月18日に仏Sacleyで欧州ホームチームの設計レビュー会議が開催された。ここでは、「調達取決め署名に向けた技術的準備は整った」との見解が示され、今後、欧州より日本にトロイダル磁場コイルの調達取決め書案が提示される予定である。なお、7月に開催予定であった技術調整会議の次回合合 (TCM-6) は、新型インフルエンザの影響などを考慮し、9月に延期された。

わが国が分担する調達については、超伝導ポロイダル磁

場コイル (中心ソレノイドCS, 平衡磁場コイルEF) の超伝導導体、真空容器トラス部、ダイバータ炭素繊維複合 (CFC) 材、ポロイダル磁場コイル、ダイバータに関する製作作業を進めた。前回報告 (本誌6月号) からの進展としては、超伝導撚線の量産が順調に進み、超伝導導体製作棟に設置したコンパクション装置の動作試験を行ってCS用の銅ダミー撚線と2種類のジャケットを用いた導体を試作する (図1) とともに、非破壊検査用のX線透過検査装置 (図2) が設置された。また、各種設計では、JT-60SA 本体のクライオスタット下部の組立手順案、電源主要機器の配置案やフィードの設置ルート案、真空容器内機器である高速位置制御コイルの基本設計案と安定化板、真空容器内コイル、電磁気センサなどの配置案 (図3) の作成を進めた。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 コンパクション装置の動作試験と製作した銅ダミー導体。



図2 超伝導導体製作棟に設置されたX線透過検査装置。

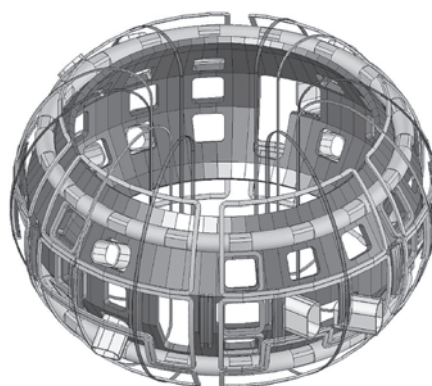


図3 安定化板、真空容器内コイル、および磁気センサ類の配置案。